

中国学生を日系企業幹部に

三島・南富士産業が経営塾、開設

「第1号」副社長就任へ

優秀な人材輩出に期待

三島市のハウスメーカーで、中国で人材育成ビジネスを手掛ける南富士産業（杉山定久社長）が七月に武漢（湖北省）に開設した、企業経営者を目指す学生をビジネスエリートとして育成する塾「グローバル・マネジメント・カレッジ（GMC）」から、一人の学生が今月中にも浙江省の日系機械部品メーカーに副社長として赴くことになった。スーパーエリート幹部候補生の「現場派遣第一号」で、優秀な人材確保に悩む日系企業の注目を集めそうだ。



杉山定久
南富士産業社長

中国は日系メーカーの進出が相次ぐが、人材に悩む声が多く、中国武漢大の客員教授として経営学を教えた杉山社長が「日本語が話せ、素質、やる気のある中国の学生を管理者として育成し、日系企業で活躍してもらおう」とGMCを開設した。

訓練期間は半年。杉山

社長をはじめ経営に携わる講師が財務管理など経営の基本を集中的に講義するほか「課題を自ら考え、解決できる人材」「管理能力プラス創造」などを人材育成の柱に据え、実践的なビジネスエリートを養成している。

七月開講の一期生は湖北、湖南、江西、陝西の四省二万人の学生から将来性、人間性などリーダの可能性を秘めた人材十五人を選抜。その後も学生から要望が相次ぎ、九月に二期生を募集、三

十五人が学び始めた。

今回、副社長（COO）最高執行責任者として乗り込むのは二十代前半の武漢大生。休学して勤務するが、勤務は卒業単位に繰り入れられる。「苦勞をいとわない」「変化を期待できる」「経営力がある」ことが学生を選んだ基準だった。

日系企業には杉山社長が早大、慶大などの学生を対象に展開している日本版GMCの中から一人を選び出し、副社長として派遣するという。